



IIAS NEWSLETTER

1999年4月発行

国際高等研究所

「けいはんな学研都市」

国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために 何を研究すべきか」を研究することを基本理念として、新たな学問の創造・発展を目指す「課題探索型」の基礎研究を行っています。

すなわち、人類の未来と幸福にとって不可欠な課題を発掘し、その問題解決に向かっての研究戦略を展開する中で、学術研究における新しい研究の萌芽、或いは新たな学問の立ち上げにより広く世界文化の発展に寄与することを目的としています。

目次

「第39回理事会・第34回評議員会」開催される
1999年度事業計画
掲示板 今後の予定
1999年度事務局紹介

「第39回理事会・第34回評議員会」開催される

1999年3月16日(火) 午前10時30分～12時

国際高等研究所 216号室

高等研の理事会(第39回)・評議員会(第34回)を去る3月16日、新宮理事長、立石副理事長、関専務理事、沢田所長はじめ、理事、監事、評議員ら22名が出席し研究所内で開催した。

会議の冒頭、新宮理事長が理事長就任1年を終えた感想を交え、「沢田所長を中心に研究スタッフの努力により、多くの研究プロジェクトが推進された。また[招へい学者(IIAS Fellow)]として、98年度は国内外から坂井利之教授、森島通夫教授ら9名の研究者を招くなど学者村構想の実現に大きな一歩を踏み出した。その上、[顔の見える研究所]として、公開の講演会やシンポジウムを、東京や大阪、京都などで積極的に実施していただいた」と述べた。なお、昨今の低金利により、財団運営が厳しいものとなっているので、引き続き支援・協力をいただくよう要請した後、以下の事項について審議を行った。

(1) 1999年度事業計画(概要は次ページ参照)

沢田所長より、事業計画を説明し、承認を得た。併せて「研究所の発展期を迎え、研究所の存在意義の明確化と、学術研究推進機能の強化に努め、研究事業運営の活性化に取り組みたい。また、同時に、関西文化

学術研究都市における中核施設としての役割を果たしていきたい」と抱負が述べられた。



正面 向かって左より
関専務理事、沢田所長、新宮理事長、立石副理事長

(2) 1999年度収支予算

新井事務局長より、「低金利状態の厳しい財政状況のもとで、本年度は当期収入2億9,126万円に対し支出は3億7,223万円と8,097万円の赤字予算となった。なお、当期収入と前期繰り越しを合わせた収入合計11億136万円に対し、支出合計3億7,228万円となり、次期繰り越し収支差額は7億2,912万円となる」旨説明し、

承認を得た。

(3) 理事・監事・評議員の交代

新宮理事長より、以下の役員、評議員の交代につき説明し、承認を得た。

理事：経済団体連合会(辻義文副会長 関本忠弘氏)

監事：京都銀行協会(柏原康夫会長 秋本満氏)

評議員：京都府立大学(井口和起学長 広原盛明氏)

立命館大学(長田豊臣学長 大南正瑛氏)

(4) 副理事長の交代

新たに関本忠弘氏から辻義文氏に交代が承認された。

<閉会>

(文責・事務局)

1999年度事業計画

1999年3月16日に開催された理事会（第39回）・評議員会（第34回）において、国際高等研究所が関西文化学術研究都市における中核的施設として機能を果たすこと及び学者村構想実現化のための礎を築くことを目指して、研究事業の一層の活性化を図ることが承認された。事業計画の概要は下記のとおりである。

一 総 括 一

1999年度の事業計画において、以下の6点を重点課題とし事業を行う。

1. 研究事業の積極的な推進

自主財源（基本財産運用益・運用財産の活用）をはじめ、文部省「科学研究費補助金」、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」、科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」等の公的資金を活用し、課題研究、準備研究、特別研究、受託研究等の研究事業の推進を図る。

2. 卓越した研究者の招へい

3. 若手研究者の育成

4. 研究成果の取りまとめ及び評価

5. 研究環境の整備及び情報発信機能の充実

本研究所の情報基盤を整備・拡充し、高度情報化に向けた取り組みを推進する。情報メディアを活用して研究活動及び研究成果の公表を行うとともに、学術出版や広報活動等についても積極的な展開を図る。

6. 財団創設15周年記念事業の開催



研究代表者：乾 敏郎

京都大学大学院情報学研究科教授

国際高等研究所特別委員

専門：心理学、認知科学

最近の人間の脳内活動の可視化技術の進歩により、人間固有の機能である言語処理の脳内メカニズムを解明できる可能性が出てきた。また、言語の処理過程はコミュニケーションという目的を実現するための部分過程であるとの認識に基づき、子供の（言語、非言語による）コミュニケーション能力の（遅滞を含む）発達的研究、失語症やある種の失行症に関する神経心理学的研究など広い視野からコミュニケーション過程の計算論的枠組みを提案することが望まれる。

本研究プロジェクトでは、言語心理学、発達心理学、認知科学、計算論的神経科学、神経心理学などの研究を背景に言語の脳内過程に関する理論的枠組みを構築することを目的として取り組んできた。

本課題研究は1999年度が最終年度であり、研究成果の取りまとめを視野に入れた事業展開を図る。これまでの成果を踏まえて、言語理解と生成に関する脳内メカニズムについて検討し、現時点での全体像をまとめるとともに今後の脳研究の方向性を明確にする。

(2) 「科学の文化的基底」

(1998年度開始、1999年度終了予定)

一 研究事業の推進 一

1. 課題研究

1999年度における課題研究は、継続研究である4研究事業と1998年度の準備研究の成果を踏まえ、課題研究に移行する2研究事業の計6件を推進する。

(1) 「言語の脳科学」

- 言語獲得と障害の脳理論を目指して -

(1997年度開始、1999年度終了予定)



研究代表者：伊東 俊太郎

東京大学名誉教授

麗澤大学比較文明研究センター

教授・センター長

国際高等研究所特別委員

専門：科学史・科学哲学

科学とそれを成立させる文化的・社会的基盤との関係を総体的に考察し、現代科学の文化的基底を明らかにして、21世紀へ向けての科学と文化との望ましい在り方を探求する。そのために、これまで歴史的に存

在した諸文化圏（オリエント、ギリシア、インド、アラビア、中国、中世ラテン世界、近代ヨーロッパ世界など）における科学の在り方を比較考察する。

本課題研究は1999年度が最終年度であり、研究成果の取りまとめを視野に入れ、国際シンポジウム「科学の文化的基底 - 比較科学史の地平 -」を開催し、これまでの研究成果の総括を行う予定である。

(3) 「生物研究と生命

- 生物学の統合化と生命概念形成への寄与 -
(1998年度開始、2000年度終了予定)

研究代表者：中村 桂子

生命誌研究館副館長
国際高等研究所特別委員
専門：生命科学・生命誌



20世紀は、人間を含むあらゆる生物の共通性を認識し、生物を分子機械と見なして、その構造と機能の解明に専心した。共通性を基盤にした生命観の提出という意味でも、これは大きな成果であると言ってよい。しかし、それはまた生物の多様性、歴史性、関係性、一回性などを忘れさせることにもつながったと考えられる。

21世紀を迎えるにあたって、このような視点を踏まえた総合生物学（分子生物学、遺伝学、発生生物学、進化学、形態学、分類学などを統合した新たな学問体系）が生まれつつある。そこでは、これまでの生命観とは異なる新しい生命観が生まれつつある。

課題研究は、統合生物学誕生の動きを把握し、新しい生命観を探ることを目的とする。

1998年度までの歴史的考察を踏まえ、1999年度は現場研究者の研究の方向とそれに関連した生命観の変化を扱い、生物学の統合の方向・方法と全体像（生命観の基礎）を探る。

(4) 「環境と食糧生産の調和に関する研究

- 人類生存の視野から -
(1998年度開始、2000年度終了予定)

研究代表者：渡部 忠世

京都大学名誉教授
国際高等研究所企画委員
専門：農学・作物学



人口の増大に伴って、環境問題と食糧生産のジレンマは拡大する。人類が生存を続けるために両者の調和をどこに求めるかは、人類が抱える最も緊急な課題の一つである。

本課題研究は、当面、地球および地域環境論、食糧生産、人口問題、発展途上国の課題、国際食糧問題と食糧政策などの諸問題に対して学際的にアプローチし、人類的課題の解決の手がかりを探ることを目的とする。

1999年度は、多様な問題を抱えるアフリカ大陸諸地域に重点を置く。主要な対象地域および研究課題について共通の認識を形成し、諸問題を探求する。そのため、公開シンポジウム「環境と食糧生産の調和 - アフリカからの発想」を開催し、関連分野の専門家と研究組織との交流によって幅広く討論することから始め、掘り下げた検討を行う。

(5) 「臨床哲学の可能性

- 生命環境の諸問題を軸として -
(1999年度新規、2001年度終了予定)

研究代表者：野家 啓一

東北大学文学部教授
国際高等研究所企画委員
専門：哲学・科学哲学



「臨床哲学 (clinical philosophy)」とは、現実社会の具体的場面で生じる哲学的な治療を必要とする問題を、自らも「医者」ではなく「患者」の一人として考えていこうとする新しい哲学的活動を指す。

本課題研究では、この臨床哲学を取り上げ、従来の哲学のようなアカデミズムの内部で抽象的な「一般的原理」の探求を目指すのではなく、具体的な「個別事例」から出発することによって既成の原理を揺さぶり、新たな概念の思考スタイルを紡ぎ出すことを試みることを目的とする。

具体的には、「臨床哲学」の方法論、「生命環境」の文化政治学、「生命操作」の倫理学、「共生」の思想等の問題意識の深化を図る。

(6) 「物質研究における多角的協力の構築」

(1999年度新規、2001年度終了予定)



研究代表者：金森 順次郎

大阪大学名誉教授
国際高等研究所特別委員
専門：物性物理学

現在、物質科学及びその関連諸分野においては、多くの研究プロジェクトが進められているが、それぞれ初期の目的に応じた人員構成になっており、新しい発展を目指すときの他のグループとの協力の手がかりが少ない場合が多くある。

本課題研究は、研究プロジェクトを横断する企画をたて、異分野を繋ぐ新しい協力関係を作り、次の新しい発展の出発点を構築することを目的とする。

2. 準備研究

準備研究とは、課題研究になり得るか否かの検討と、課題研究として採択された場合に研究計画を円滑に実施できるよう、概ね1年を目途に準備的な研究を行うものである。

1999年度は、研究期間を延長する2課題と新規の5課題の計7件とする。

(1) 「政府統治(government governance)の研究

- 現代日本政府の統治構造 - 」

研究代表者：本間 正明（専門：公共経済学）
大阪大学経済学部教授
国際高等研究所特別委員

(2) 「ヒト遺伝子解析及び遺伝子医療に伴う倫理問題とそれへの対応」

研究代表者：武部 啓（専門：遺伝学）
近畿大学原子力研究所教授
国際高等研究所特別委員

(3) 「次世代ソフトウェアの調査研究」

研究代表者：大野 豊（専門：情報工学）
京都大学名誉教授
国際高等研究所企画委員

(4) 「感性情報の特徴パターンと情動反応の関連性について

- 音楽の美しい音の特徴物 理量パターンと、これに対応する脳の情動生理反応の関連性について - 」

研究代表者：安藤 由典（専門：音楽学）

東京情報大学経営情報学部教授
国際高等研究所特別委員（4月就任予定）

(5) 「我ら体細胞にとって生殖細胞とは何か？ - 何故、そして如何にして、我々は自らの生存には不必要な生殖細胞を作るのか？ - 」

研究代表者：岡田 益吉（専門：発生生物学）
筑波大学名誉教授
国際高等研究所企画委員

(6) 「『一つの世界』の成立とその条件

- 鎖国時代の日本とヨーロッパ - 」

研究代表者：中川 久定（専門：フランス文学）
京都大学名誉教授
国際高等研究所特別委員

(7) 「東南アジアにおける地球環境変動に関する国際共同研究の態勢

- 途上国との研究協力長期発展の立場から - 」

研究代表者：加藤 進（専門：超高層物理学）
京都大学名誉教授
国際高等研究所特別委員

3. 特別研究

本財団が、事業主体との間で委託研究契約または共同研究契約を締結して推進する事業の内、特に大型の予算を組み、数年に亘る研究期間を予定する特殊性などを考慮して、特別の推進体制や研究の枠組みを設けて推進する研究事業を「特別研究」とする。

1999年度は1998年度から開始した2特別研究事業を推進する。

(1) 「情報市場における近未来の法モデル」

研究代表者：北川 善太郎（専門：民法）
京都大学名誉教授
国際高等研究所副所長

本特別研究は、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」として認められた研究事業である。研究期間は、1998年度～2002年度（5年間）。

本研究課題の趣旨は、情報社会における情報と知的財産の創造と流通に関する著作権市場「コピーマーケット」について、法モデルを策定することにある。

(2) 「器官形成に関わるゲノム情報の解読」

研究代表者：松原 謙一（専門：分子生物学）
大阪大学名誉教授
国際高等研究所副所長

本特別研究は、科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」として認められた研究事業である。

研究期間は、1998年12月～2003年11月（5年間）。

高等動物の器官形成は、全面的にゲノムに組み込まれた遺伝情報の逐次的発現に基づいて進行するものと考えられる。

研究代表者らによって開発された、個々の器官で働いているmRNAの殆ど全ての構造分子種を網羅的に同定し、それぞれの発現量を高い精度で解析する技術システムを駆使して、器官形成における遺伝子発現のプロファイルを経時的に追い、複雑な調節系にある遺伝子発現の継起事象を遺伝子単位で記載し、器官形成における発現制御のネットワークを明らかにすることを目的とする。

4. 宇宙開発事業団から受託研究

宇宙開発事業団から1996年度より受託した調査研究で、1999年度も継続して「宇宙ステーション等の人文社会的利用法に係わる調査研究」をテーマとする受託研究を予定する。

なお、実際の事業化にあたっては、同事業団との協議により、共同研究として実施する可能性を含む。

5. 京都大学数理解析研究所との共同研究

1997年度から開始された京都大学数理解析研究所との共同研究について、1999年度も引き続き事業化を図る。

6. 学術フォーラム**(1) 「複雑系と社会科学の方法」**

主宰者：塩澤 由典（専門：数理経済学）
大阪市立大学経済学部教授

1998年度に実施した準備研究「複雑系と社会科学の方法」の研究成果を踏まえ、学術フォーラムを開催する。

学の方法」の研究成果を踏まえ、学術フォーラムを開催する。



高等研の近くに咲くソメイヨシノ
(4月8日撮影)

—卓越した研究者の招へい—**(招へい学者「IIAS Fellow」、
招へい研究者「IIAS Researcher」制度)**

本研究所の優れた研究環境を醸成するため、本研究所の研究施設を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者 (IIAS Fellow)」として招へいする制度を活用し、1999年度においても10名程度の国内外の学者の招へい事業を予定する。招へい学者は、原則として2ヶ月間本研究所に滞在し、自らの研究を推進すると共に、国内外の研究者との研究交流を通じて、本研究所の研究活動の推進を図る。

また、滞在期間中またはその後のしかるべき時期に、当該招へい学者を講師として一般を対象とする公開講演会を開催する。

この他、特別研究等に関連し、若干名の「招へい研究者 (IIAS Researcher)」の委嘱を予定する。

1999年度における招へい学者(候補者)

(敬称略)

- ・赤井 浩一：京都大学名誉教授
大阪土質試験所理事長（地盤工学）
- ・京極 好正：大阪大学名誉教授（蛋白質物性）
- ・新野幸次郎：神戸大学名誉教授・元神戸大学長
(経済政策)
- ・田中 郁三：東京工業大学名誉教授・武蔵学園長
(物理化学)
- ・田丸 謙二：東京大学名誉教授（物理化学）
- ・飛田 武幸：名城大学理工学部教授（応用数学）
- ・南部陽一郎：シカゴ大学特別主任教授
(理論物理学・素粒子論)

- ・久城 育夫：東京大学名誉教授 (地球物理学)
- ・細谷 千博：国際大学教授 (国際政治学)
- ・Arthur Pardee：ハーバード大学教授 (生化学)
- ・Bruce Alberts：米国科学アカデミー総裁 (分子生物学)

－若手研究者の育成－

（特別研究員および研究員制度）

優秀な若手研究者の研究を奨励するために研究奨励金を支給する「特別研究員」制度に加えて、1999年度より特別研究等の研究事業に若手研究者を参加させ、研究の進展を促進するとともに、若手研究者の育成を図ることを目的とする「研究員」制度を新設する。

1999年度は、特別研究員として1998年度から継続する2名に加えて、新たに、齋藤宣一（明治大学大学院理工学研究科後期博士課程修了）、北浩子（大阪大学大学院理学研究科後期博士課程修了）を採用した。期間は2カ年間。また研究員として1999年4月1日より上野達弘（京都大学大学院法学研究科後期博士課程修了）、山名美加（大阪大学大学院法学研究科後期博士課程修了）を採用した。

－「一般公開」事業－

（1）一般公開講演会

IIAS フェロー等による公開講演会を開催する。

（2）『親子』サイエンス・スクール

1999年秋に小学校5、6年生とその保護者を対象とした親子サイエンススクールを開催する。

講師は川那部浩哉(かわなべ・ひろや)滋賀県立琵琶湖博物館館長らを予定。

－情報出版事業ならびに 研究成果の公表－

1998年度以前に終了した一部の研究事業、ならびに1998年度において研究事業が終了する課題研究及び準備研究については、その研究成果を1999年度内に取りまとめるとともに、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等、研究成果の公表に努める。

また、インターネット等の情報メディアを活用し、情報出版事業の充実に努める。

－財団創設15周年記念事業－

本財団が文部省の認可を受けて創設（1984年8月22日設置認可）されて、1999年度で15年目を迎えることから、財団創設15周年記念事業として、記念式典、記念学術講演会、ならびに記念出版を企画実施する。

過去15年間に亘り、本研究所の設立理念の実現化（課題探索型の学際的基礎研究）を命題として行われてきた数々の研究事業の成果を踏まえ、活動実績（研究成果）の確認ならびに公表とともに、本研究所の存在意義を世に問うことを狙う。

－広報活動－

（1）広報誌「こうとうけん」ならびに 「IIAS NEWS LETTER」の発行

（2）インターネットホームページの充実

「<http://www.iias.or.jp/>」

課題研究 研究メンバー

（*印は代表、50音順・敬称略）

（1）言語の脳科学

- * 乾 敏郎 京都大学大学院情報学研究科教授
- 飯田 仁 ソニーコンピュータサイエンス研究所室長
- 大津 由紀雄 慶應義塾大学言語文化研究所教授
- 大槻 美佳 国立循環器病センター脳内科医師
- 落合 正行 追手門学院大学人間学部教授
- 川人 光男 ATR人間情報通信研究所第3研究室室長
- 斎木 潤 京都大学大学院情報学研究科助教授
- 田中 茂樹 岡谷病院神経内科医師
- 田邊 敬貴 愛媛大学医学部教授
- 寺尾 康 常葉学園短期大学教養教育科助教授

- 中川 賀嗣 大阪大学大学院医学系研究科助手
- 西澤 貞彦 京都大学病院大学院医学研究科助手
- 波多野 誼余夫 慶應義塾大学文学部教授
- 日比谷 潤子 慶應義塾大学国際センター助教授
- 牧岡 省吾 大阪女子大学学芸学部講師
- 水光 雅則 京都大学総合人間学部教授
- 山鳥 重 東北大学大学院医学系研究科教授

（2）科学の文化的基底

- * 伊東俊太郎 麗澤大学比較文明センター所長
- 伊藤 和行 京都大学大学院文学研究科助教授
- 江尻 宏泰 大阪大学核物理研究センターセンター長

大野 誠 愛知県立大学外国語学部教授
 小川眞里子 三重大学人文学部教授
 金子 務 帝京平成大学情報学部教授
 川崎 勝 山口大学医学部助教授
 鬼頭 秀一 東京農工大学農学部教授
 楠葉 隆徳 大阪経済大学経済学部教授
 小松 美彦 玉川大学文学部助教授
 斉藤 光 精華大学人文学部助教授
 佐藤 徹 東京医科歯科大学教養部教授
 高橋 憲一 九州大学大学院比較社会文化研究科教授

塚原 東吾 神戸大学国際文化学部助教授
 中島 秀人 東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授

成定 薫 広島大学総合科学部教授
 野家 啓一 東北大学文学部教授
 橋本 敬造 関西大学社会学部教授
 三浦 伸夫 神戸大学国際文化学部教授
 矢野 道雄 京都産業大学国際言語科学研究所教授
 山崎 正勝 東京工業大学社会理工学研究科教授
 山本 啓二 京都産業大学外国語学部非常勤講師
 横山 輝雄 南山大学文学部教授
 八耳 俊文 青山学院女子短期大学助教授

(3) 生物研究と生命

* 中村 桂子 J T生命誌研究館副館長
 相澤 慎一 熊本大学医学部教授
 阿形 清和 姫路工業大学理学部助教授
 岡田 節人 J T生命誌研究館館長
 岡田 益吉 筑波大学名誉教授
 倉谷 滋 岡山大学理学部教授
 坂野 仁 東京大学大学院理学系研究科教授
 笹井 芳樹 京都大学再生医科学研究科教授
 佐藤 矩行 京都大学大学院理学研究科教授
 高橋 淑子 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科助教授

武田 洋幸 名古屋大学理学部助教授
 堀田 凱樹 国立遺伝学研究所所長
 松原 謙一 国際高等研究所副所長
 山本 正幸 東京大学大学院理学系研究科教授

(4) 環境と食料生産の調和に関する研究

* 渡部 忠世 農耕文化研究振興会代表
 海田 能宏 京都大学東南アジアセンター
 掛谷 誠 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
 久馬 一剛 滋賀県立大学環境科学部教授

桐谷 圭二 農林水産省農業環境技術研究所名誉研究員
 高瀬 国雄 (財)国際開発センター理事
 高村 康雄 京都大学名誉教授
 辻井 博 京都大学大学院農学研究科教授
 坪内 良博 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科長
 西尾 敏彦 (社)農林水産技術情報協会理事長
 福井 勝義 京都大学総合人間学部教授
 陽 捷行 農林水産省農業環境技術研究所部長

(5) 臨床哲学の可能性

* 野家 啓一 東北大学文学部教授
 池田 清彦 山梨大学教育学部教授
 小川眞里子 三重大学人文学部教授
 金森 修 東京水産大学助教授
 川本 隆史 東北大学文学部教授
 小林 傳司 南山大学文学部助教授
 小松 美彦 玉川大学文学部助教授
 柴谷 篤弘 京都精華大学名誉教員
 清水 哲郎 東北大学文学部教授
 田村 公江 龍谷大学社会学部助教授
 チョン・ヨンハ 広島修道大学人文学部助教授
 中岡 成文 大阪大学文学部教授
 鷲田 清一 大阪大学文学部教授

(6) 物質研究における多角的協力の構築

* 金森順次郎 大阪大学名誉教授
 赤井 久純 大阪大学大学院理学研究科教授
 井口 洋夫 国際高等研究所副所長
 大平 文和 日本電信電話(株)NTT通信エネルギー研究所ネットワーク装置インテグレーション研究部部長
 興地 斐男 和歌山工業高等専門学校校長
 齋藤 軍治 京都大学大学院理学研究科教授
 十倉 好紀 東京大学工学部教授
 寺倉 清之 通産省工業技術院産業技術融合領域研究所首席研究官
 福山 秀敏 東京大学理学部教授
 丸山 有成 法政大学工学部教授
 三宅 和正 大阪大学大学院基礎工学研究科教授
 高尾 正敏 松下電器産業(株)研究本部研究企画部部長
 志水 隆一 大阪大学大学院工学研究科教授
 池田 順治 松下技研(株)超機構研究所取締役所長
 仲田 周次 大阪大学大学院工学研究科教授
 町田 一道 三菱電機(株)生産技術センター主管技師長

掲示板

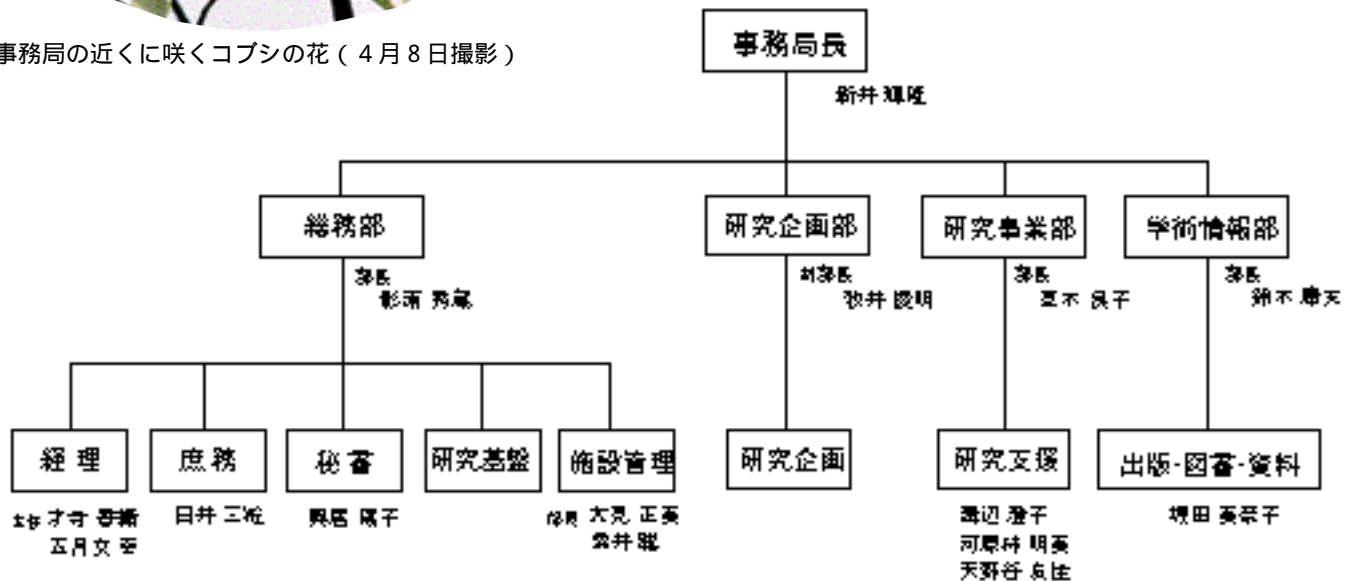
◎今後の予定 (会場は原則として高等研) 1999年4月~1999年6月

月日	プロジェクト名	オーガナイザ
4月9日(金) ~10日(土)	「物質研究における多角的協力の構築」第8回 研究会	金森順次郎 (特別委員/大阪大学前総長)
4月10日(土)	IIASフェロー公開講演会 「科学と技術の間」	西島和彦(仁科記念財団理事長)
4月16日(金)	「物質研究における多角的協力の構築」第9回 研究会	金森順次郎 (特別委員/大阪大学前総長)
4月22日(木)	「我ら体細胞にとって生殖細胞とは何か？」第 1回研究会(準備研究)	岡田益吉 (企画委員/筑波大学名誉教授)
4月23日(金) ~24日(土)	「科学の文化的基底」第10回研究会	伊東俊太郎 (特別委員/麗澤大学比較文明研究センター所長)
5月8日(土)	IIASフェロー公開講演会 「地球科学の進歩と限界」	加藤進(京都大学名誉教授)

1999年度 事務局紹介



事務局の近くに咲くコブシの花(4月8日撮影)



お問い合わせ

国際高等研究所

International Institute for Advanced Studies

編集・発行 / 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

http://www.ias.or.jp/ e-mail: www_admin@ias.or.jp